

## Ⅱ アンケート結果の概要

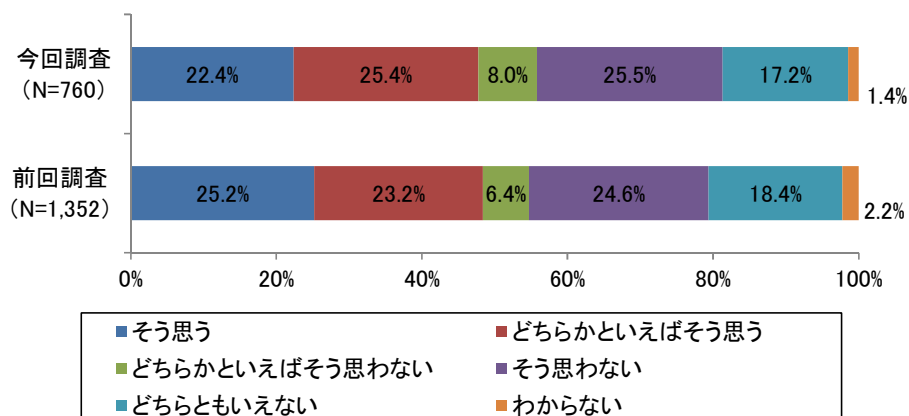
### 1 結婚に関すること

○結婚に関する意識	
ア 生涯を独身で過ごすことは望ましい生き方ではない。	
肯定的 … 47.8%	否定的 … 33.5%
イ 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である。	
肯定的 … 32.9%	否定的 … 56.5%
ウ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。	
肯定的 … 10.6%	否定的 … 79.6%
エ 結婚したら子どもを持つべきである。	
肯定的 … 44.6%	否定的 … 35.6%
オ 恋愛と結婚は別である。	
肯定的 … 59.3%	否定的 … 25.1%
カ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない。	
肯定的 … 42.1%	否定的 … 35.1%

#### ア 生涯を独身で過ごすことは望ましい生き方ではない。

肯定的な考え方を持つ人が47.8%と半数近くを占めており、否定的な考え方を持つ人の33.5%を14.3ポイント上回っています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合(47.8%)については、前回調査時(48.4%)と比べると、ほとんど変化はありません。

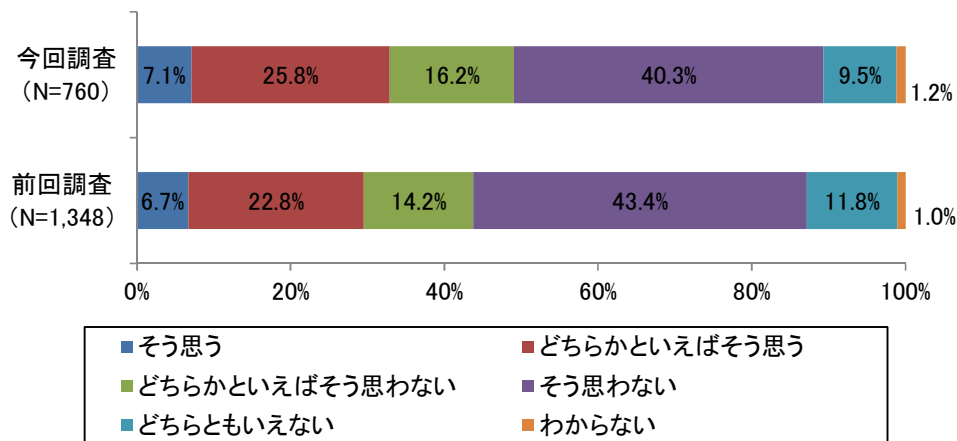
生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない



イ 結婚したら家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である。

否定的な考え方を持つ人の割合が 56.5% となっており、その中でも「そう思わない」が 40.3% に達しています。また、否定的な考え方を持つ人の割合（56.5%）については、前回調査時（57.6%）と比べると、ほとんど変化はありません。

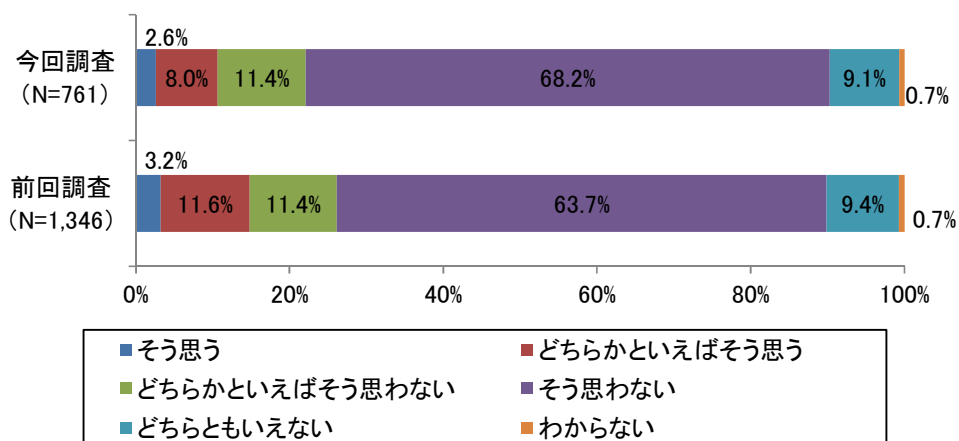
結婚したら家庭のために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である。



ウ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。

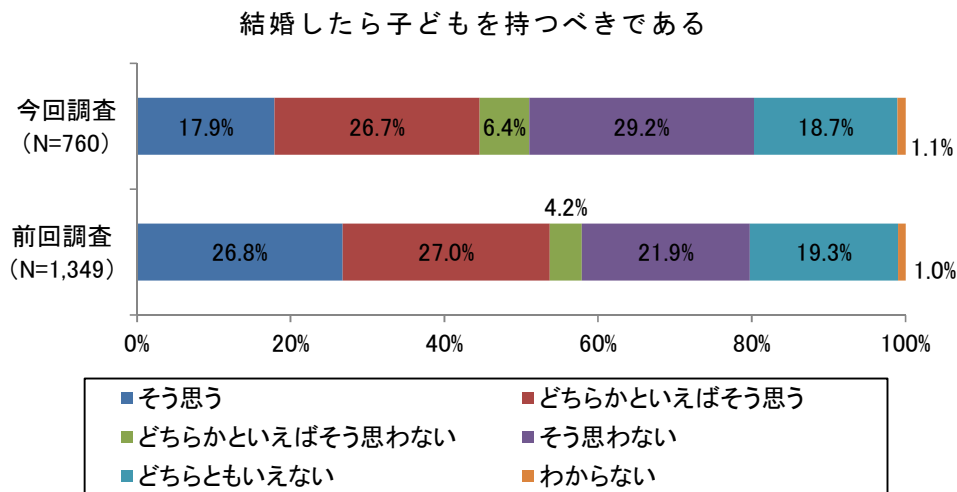
否定的な考え方を持つ人の割合（79.6%）が約 8 割を占めており、その中でも「そう思わない」が 68.2% に達しています。また、否定的な考え方を持つ人の割合（79.6%）については、前回調査時（75.1%）と比べると、ほとんど変化はありません。

結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



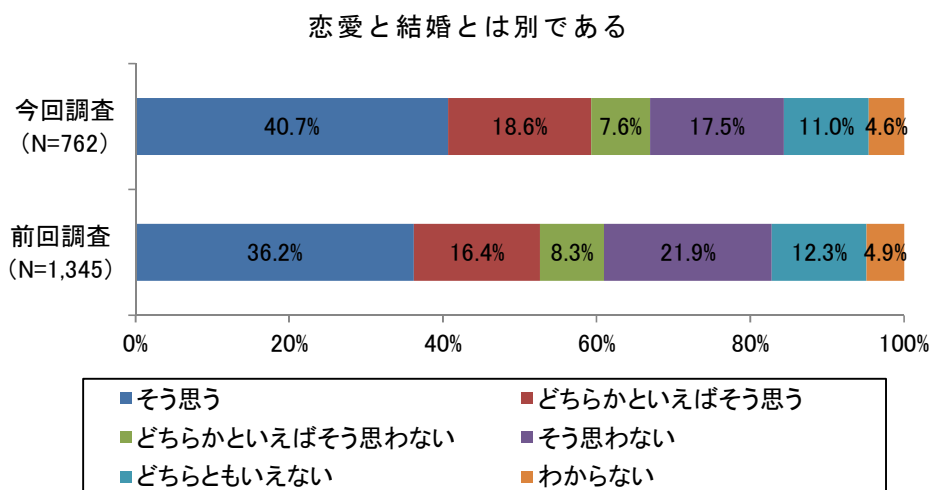
エ 結婚したら子どもを持つべきである。

肯定的な考えを持つ人の割合が 44.6% となっています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合（44.6%）については、前回調査時（53.8%）と比べると、9.2 ポイント下回っています。



オ 恋愛と結婚とは別である。

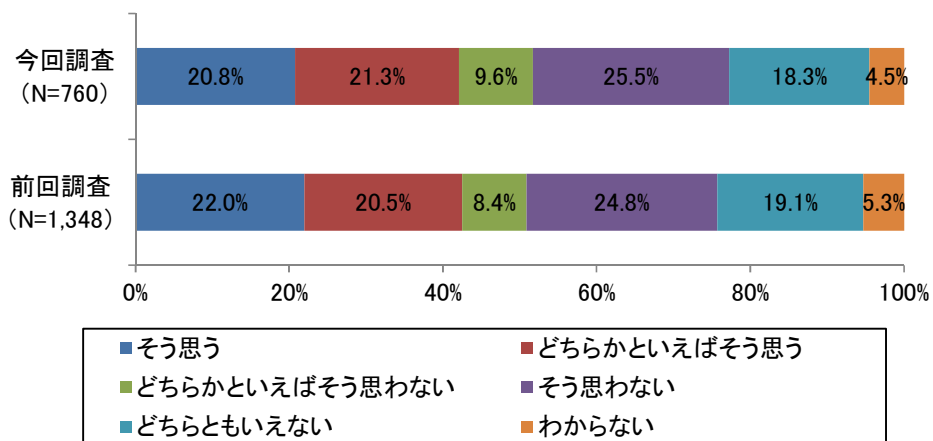
肯定的な考え方を持つ人の割合（59.3%）が約 6 割を占めており、その中でも「そう思う」が 40.7% となっています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合（59.3%）については、前回調査時（52.6%）と比べると、6.7 ポイント上回っています。



カ いったん結婚したら、性格の不一致ぐらいで別れるべきではない。

肯定的な考えを持つ人の割合が 42.1%となっています。また、肯定的な考え方を持つ人の割合（42.1%）については、前回調査時（42.5%）と比べると、ほとんど変化はありません。

いったん結婚したら、性格の不一致ぐらいで別れるべきではない



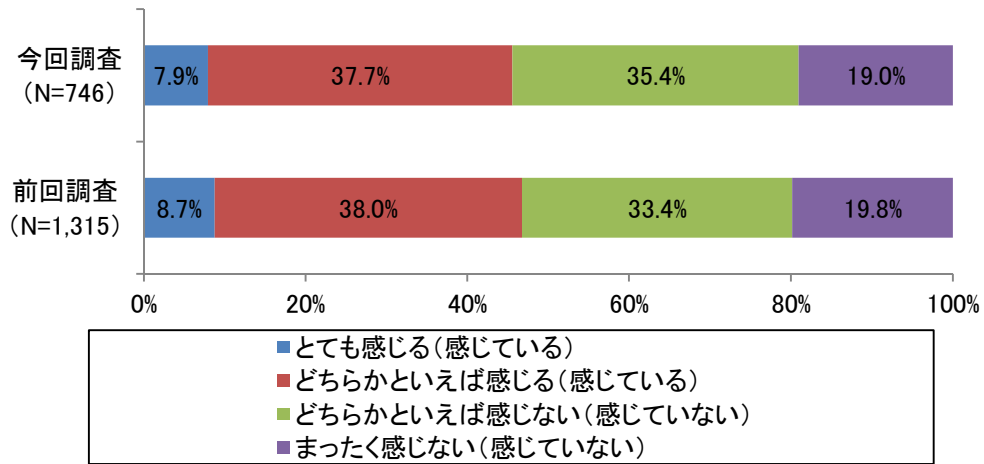
○結婚に対する負担

結婚に対して負担を感じる人の割合 … 45.6%

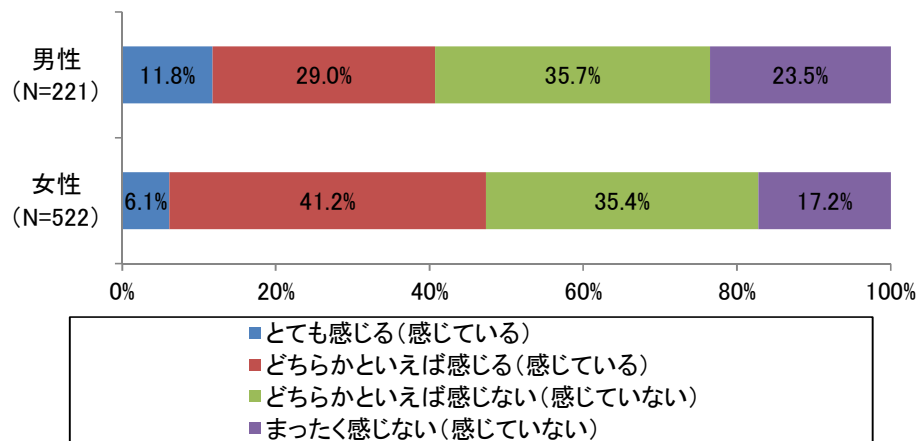
結婚に対して負担を感じるかどうかについては、「とても感じる」または「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合を合わせると、5割弱の人が何らかの形で結婚に対する負担を感じていることが分かります。

男女別では男性よりも女性において「負担を感じている人」の割合が高くなっています。

全体



男女別



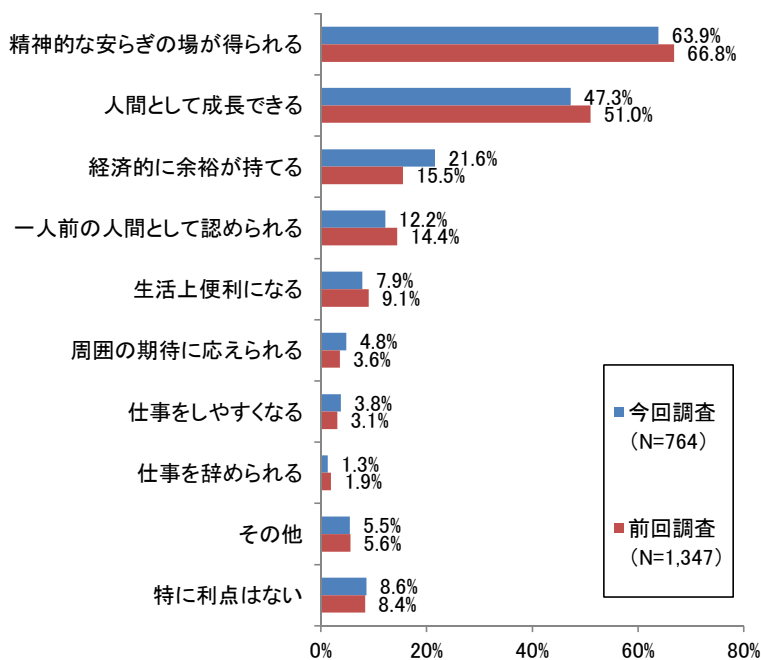
○結婚することによる利点

- |    |                  |   |       |
|----|------------------|---|-------|
| 1位 | 「精神的な安らぎの場が得られる」 | … | 63.9% |
| 2位 | 「人間として成長できる」     | … | 47.3% |
| 3位 | 「経済的に余裕が持てる」     | … | 21.6% |

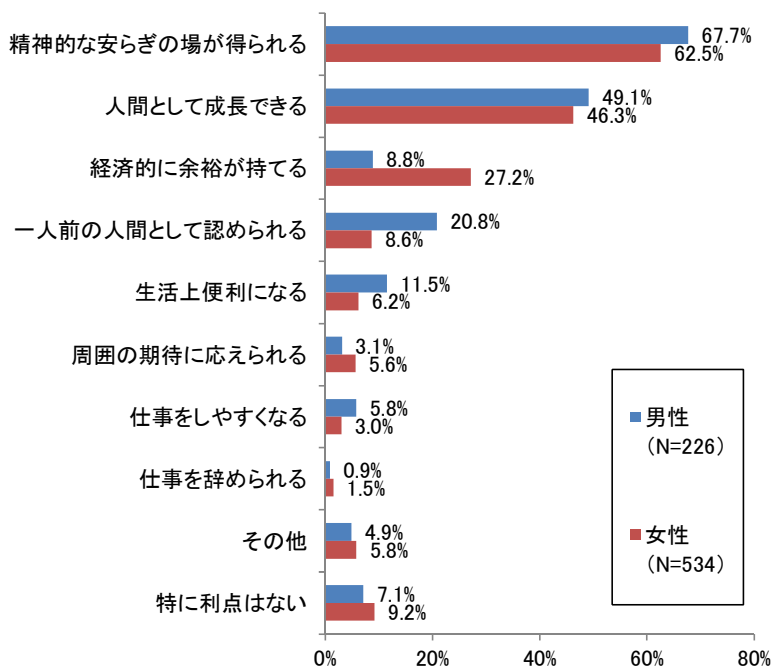
結婚することによってどのような利点が生じると考えるかについては、「精神的な安らぎの場が得られる」（63.9%）及び「人間として成長できる」（47.3%）と回答した人の割合が特に高くなっています。

前回調査時と比べると、「精神的な安らぎの場が得られる」及び「人間として成長できる」は依然として高い一方、「経済的に余裕が持てる」などの項目では前回を上回っています。男女別では、男性で「一人前の人間として認められる」（20.8%）、女性で「経済的に余裕が持てる」（27.2%）の割合が高くなっています。

全体



男女別



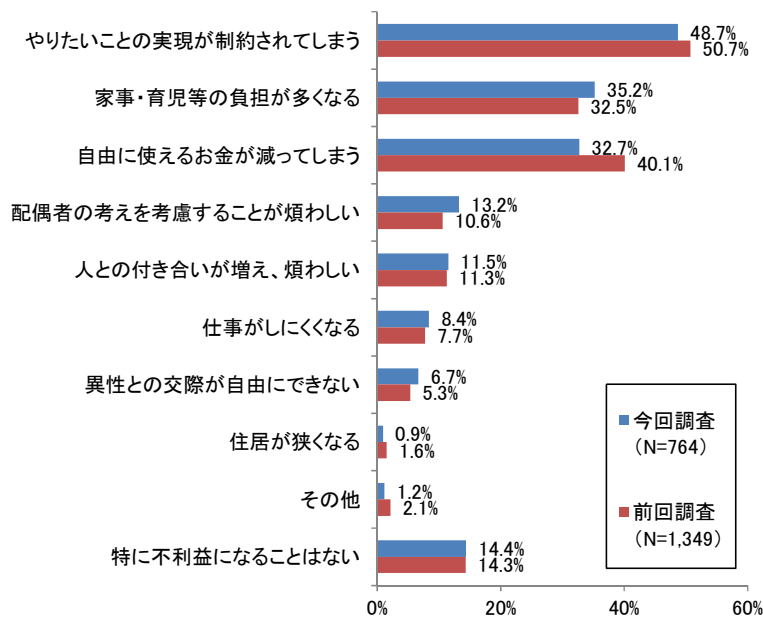
○結婚することによる不利益

1位	「やりたいことの実現が制約されてしまう」	…	48.7%
2位	「家事・育児等の負担が多くなる」	…	35.2%
3位	「自由に使えるお金が減ってしまう」	…	32.7%

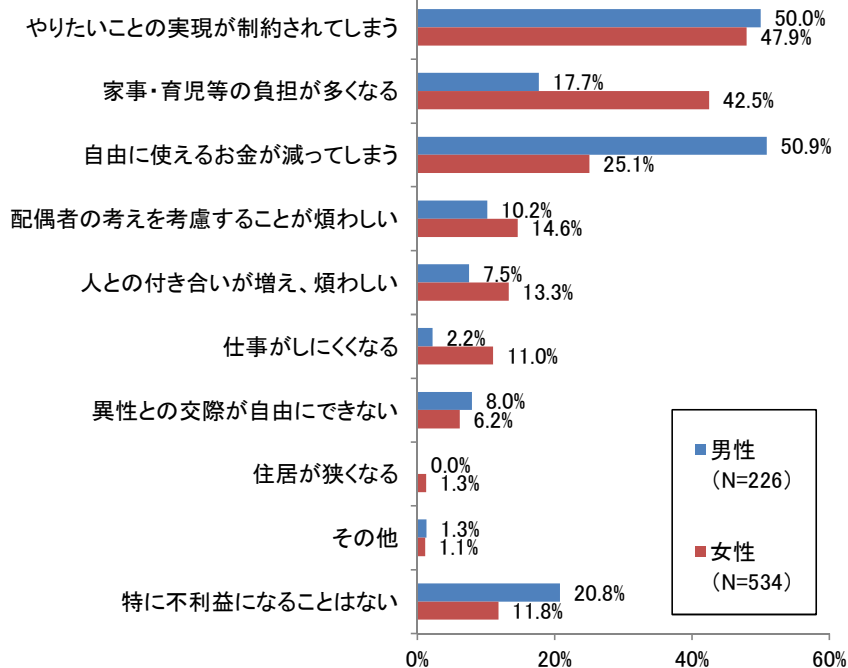
結婚することによって生じる不利益については、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（48.7%）、「家事・育児等の負担が多くなる」（35.2%）、「自由に使えるお金が減ってしまう」（32.7%）と回答した人の割合が高くなっています。

男女別では、男性で「自由に使えるお金が減ってしまう」（50.9%）、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（50.0%）の割合が高いのに対し、女性では、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（47.9%）、「家事・育児等の負担が多くなる」（42.5%）の割合が高くなっています。

全体



男女別



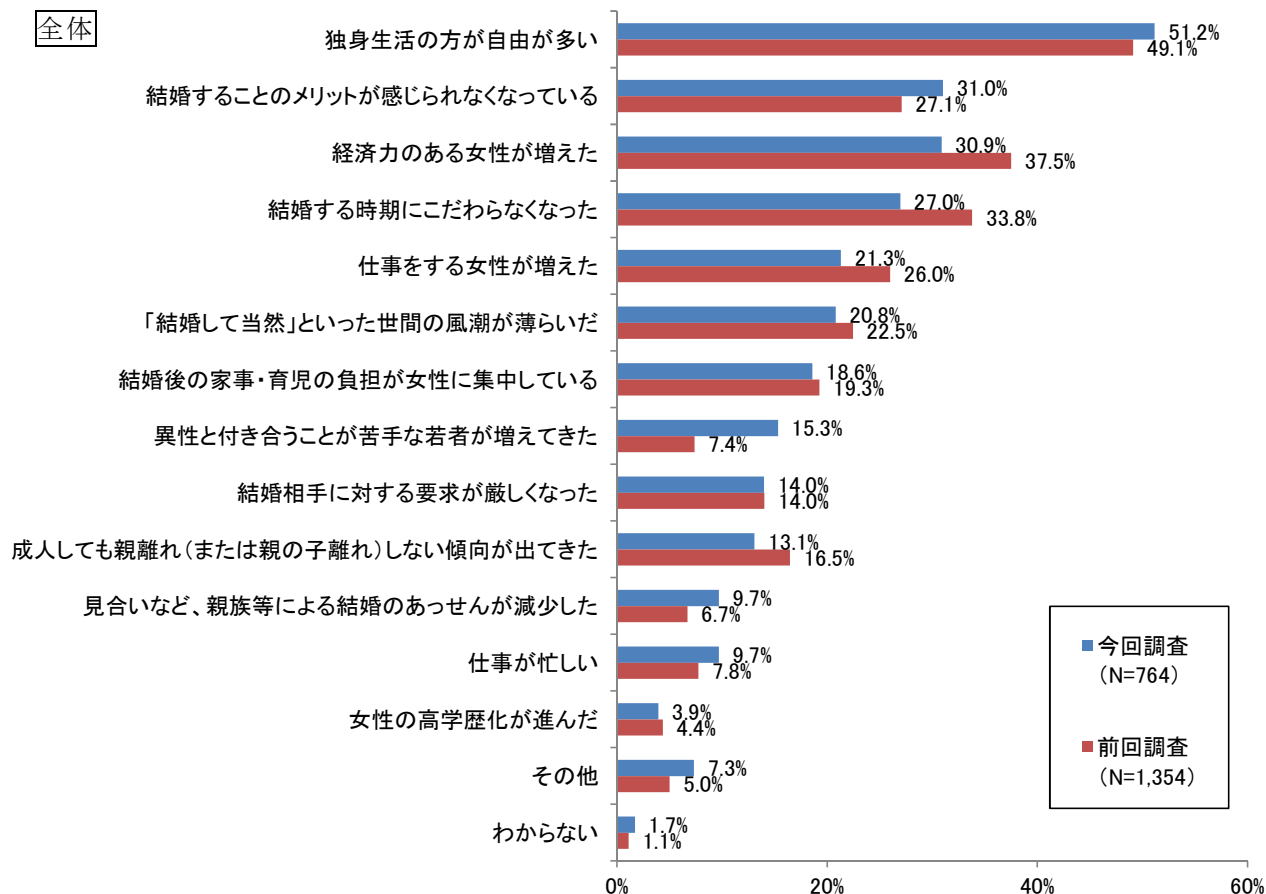
○未婚化・晩婚化の理由

1位	「独身生活の方が自由が多い」	…	51.2%
2位	「結婚することのメリットが感じられなくなっている」	…	31.0%
3位	「経済力のある女性が増えた」	…	30.9%

未婚化・晩婚化の理由については、「独身生活の方が自由が多い」（51.2%）、「結婚することのメリットが感じられなくなっている」（31.0%）、「経済力のある女性が増えた」（30.9%）と回答した人の割合が高くなっています。前回調査時と比べると、「独身生活の方が自由が多い」、「結婚することのメリットが感じられなくなっている」が前回は上回る一方、「経済力のある女性が増えた」、「結婚する時期にこだわらなくなった」などの項目が前回は下回っています。

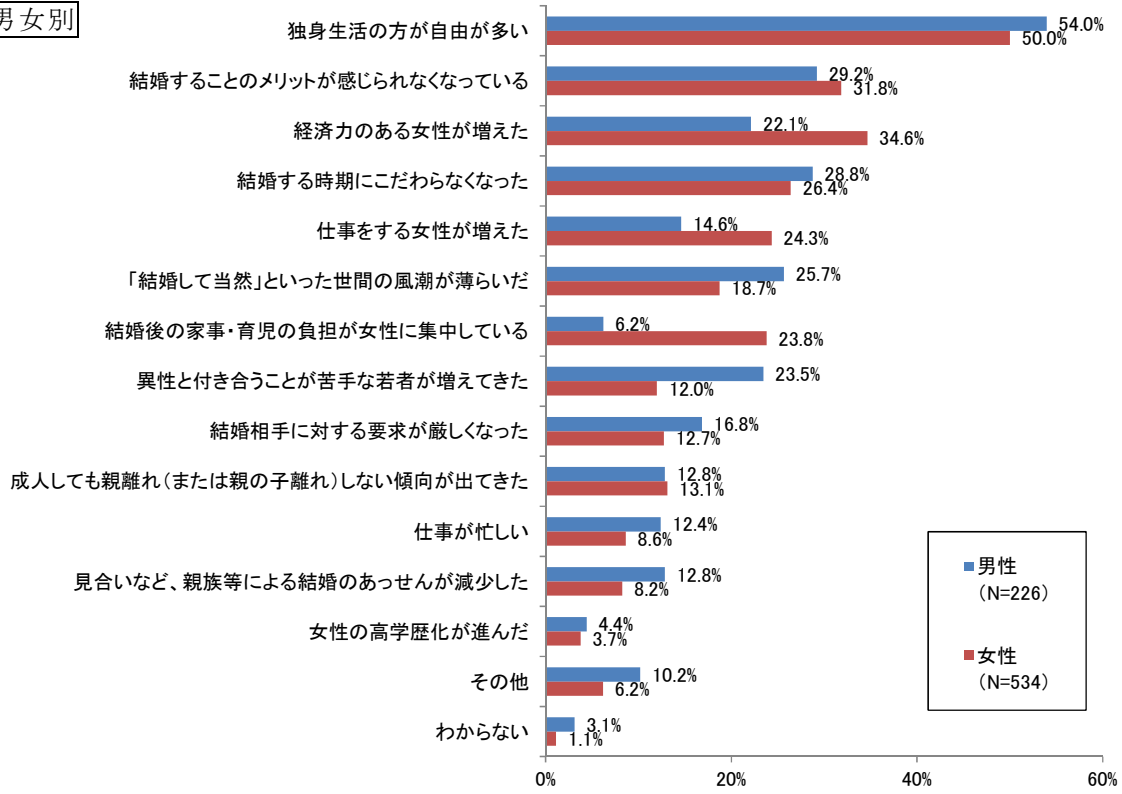
男女別でみると、男性では、「結婚して当然といった世間の風潮が薄らいだ」、「異性と付き合うことが苦手な若者が増えてきた」などの割合が、女性では、「経済力のある女性が増えた」、「仕事をする女性が増えた」、「結婚後の家事・育児の負担が女性に集中している」などの割合が高くなっています。

全体





男女別



○独身者の結婚に対する意向

いずれ結婚したい … 87.9%

自分の一生を通じて考えた場合、「いずれ結婚するつもり」が9割近くとなっています。また、独身者である理由については、「結婚したいと考える相手にめぐり合わないから」（47.6%）の割合が最も高くなっています。

